

<ちょっと情報> 知的障がいのある人の住まい



「どこで暮らすのか?」「誰と暮らすのか?」生活の基盤になる「住まい」はとても大切な問題です。「住まい」は着実に選択肢が増えていきます。

- ①自宅（家族同居）
自宅で親きょうだいと一緒に暮らし、昼間は会社や作業所などへ通い、休日は自宅で過ごしたり家族やヘルパーと出かけたりします。
- ②グループホーム（共同生活援助）
支援を受けながら少人数で共同生活し、昼間は会社や作業所などへ通い、休日は自室で過ごしたりヘルパーと出かけたりします。
- ③シェアハウスタイプの共同生活
家賃を分担する目的で集った人たちと共同生活し、昼間は会社や作業所などへ通い、休日は自室で過ごしたり自分で（時にはヘルパーと）出かけたりします。
- ④社員寮
会社の用意した寮で暮らし、昼間は会社に通い、休日は自室で過ごしたり自分で（時にはヘルパーと）出かけたりします。
- ⑤アパートなどの独立生活
自宅やアパートなどで親元を離れて独立生活をし、昼間は会社や作業所などへ通い、休日は自室で過ごしたり自分で（時にはヘルパーと）出かけたりします。
- ⑥入所施設（障害者支援施設）
入所施設で支援を受けながら大人数で共同生活し、昼間は作業所や施設へ通い、休日は自室で過ごします。
- ⑦親元を離れて暮らす練習
訓練施設やグループホームで親元を離れて暮らす練習をし、昼間は会社や作業所などへ通い、休日は自室で過ごしたりヘルパーと出かけたりします。

堺愛育会への入会のお願い

堺愛育会の活動にご賛同、ご協力をしていただける方の入会を募っています。会費は1口 1000円です。よろしく願いいたします。

振り込み先： ゆうちょ銀行 00910-7-310506

堺愛育会

（オレンジ色の振込用紙で振り込みをお願いいたします）

また、連絡をいただきましたら、振込用紙を送らせていただきます。



編集後記



明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルスという大きな問題に直面し今までしたことがない体験をしました。その様な中でも前向きに考え、工夫して感染者を出すことなく、利用者様に楽しく満足していただけるようにと、考えながら活動を提供してきました。いろいろ取り組んでいく中で、良い発見ができたことも多くさんありました。

今年も、あすなろ授産所は元気に楽しく活動をしていきたいと思ひます。（渡辺）

陽の丘

(144号) 令和3年1月発行
発行 堺愛育会 鈴木 之人
編集 堺愛育会
〒593-8312
堺市西区草部493番1
あすなろ授産所 TEL 072-271-8001
FAX 072-271-8002

「知的障がい者に暖かい太陽の光をあてるようにしなければならぬ。その人達の住むところ・集まる場所は、陽光のサンサンとふりそぐ、陽のあたる丘でなければならぬ。」「その意味で「陽の丘」と名づけた。」

深瀬 孝一

年頭のご挨拶

堺市健康福祉局 障害福祉部
障害者支援課長 佐野 庸子

明けましておめでとうございます。

堺愛育会の皆様におかれましては、新しい年の始まりを健やかに迎えることと心からお慶び申し上げます。また、旧年中は、本市障害福祉行政に、温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威をふるい、私たちが「新しい生活様式」を模索する一年となりました。皆様には、感染防止に気を付けながら活動の継続に尽力していただきましたことに重ねてお礼申し上げます。

実際、あすなろ授産所におかれましては、個性と魅力いっぱい授産製品の製作や、レクリエーションを通じたリフレッシュや交流の機会の創設、食育や防災についての勉強会など、利用者の日中活動が充実したものとなるよう様々な工夫をこらしておられると感じています。

また、あすなろ授産所が利用者や近隣の方に親しまれているのは、利用者の意見を聴き、ともに考えながら取り組む姿勢によるものと考えており、今後も、皆様の活動を大変楽しみにしています。

さて、「ウィズコロナ」における障害福祉サービスについては、職員、利用者ともに不安を感じる点が多いかと思ひます。本市も、皆様と連携し、必要な対策を講じながら、安全・安心なサービス提供が可能となるよう努めてまいります。

そして、住み慣れた地域でその人らしく、いきいきと暮らしていただけるよう、引き続き取り組みを進めてまいりますので、ご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びにあたり、この一年が皆様にとりまして実りの多い年になりますとともに、堺愛育会のさらなるご発展、会員の皆様のますますのご健勝とご多幸、そして、一日も早い感染の収束を祈念しまして、年頭のご挨拶といたします。

新年のあいさつ

堺愛育会 会長 鈴木 之人
明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

また、日頃より堺愛育会にご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

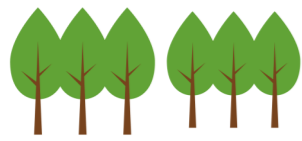
昨年は、新型コロナウイルス感染拡大という大変な事態になり、日本だけでなく世界中で多くの死者がでました。また、オリンピック、高校野球、祭り、花火などのイベントが中止になり、プロ野球、大相撲などスポーツやコンサートが無観客開催というようなことにもなりました。

その中でも、私たちは多くのことを学び、ウィズコロナといわれるように新型コロナウイルス感染症防止対策をしながらの生活様式になりました。

コロナウイルスに負けないように、今年も皆様にとって良い年になりますよう心よりお祈り申し上げます。



202



グループ遠足



今年は新型コロナウイルス感染症のため、いつものような全員でマイクロバスに乗って…という遠足ではなく、三密を避けるためグループに分かれての遠足になりました。場所も人が少なく密にならない所を選び、昼食はテイクアウトできるものを公園で食べました。

10月6日から11月30日にかけて、10グループ（職員2人、利用者様2人～4人）に分かれてグループ遠足を実施しました。

行先は浜寺公園、とんぼ池公園、松尾寺公園、海とのふれあい広場、大仙公園の中から利用者様が希望する場所へ行きました。初めての試みでしたが、利用者様も職員も戸惑うことなくスムーズに遠足を楽しんでいました。

各グループで行先や昼食内容も異なる為、利用者様同士で「俺マクド食べるねん!」「私お弁当にしようかな?」「どこの場所に行くの?」「浜寺公園やで!」等、利用者様の間で話のきっかけにもなりました。

実際公園で食べる昼ご飯はすごくおいしくて、普段とは違った内容で利用者様も職員も楽しんでいました。また、少人数のグループという事もあり、ゆっくり過ごすことができ、参加された方も笑顔が多くリラックスして過ごされていました。

雨天で延期になったグループもありましたが、事故なく、トラブルなく利用者様も職員も楽しく参加できたことが一番良かったと思います。新型コロナウイルス感染拡大の為、イベントの縮小等もありますが、今後とも利用者様も職員も一緒に楽しめるイベントができればと思っています。

(西村)



10月13日(火) 浜寺公園



10月14日(水) トンボ池公園



10月20日(火) 松尾寺公園



10月22日(木) 海とのふれあい広場



10月24日(土) 大仙公園



10月31日(土) 大仙公園



あすなろ授産所の感染防止対策



☆手洗い、うがい、検温、消毒、マスクの着用を徹底。

手洗いや消毒、うがい、マスクをすることを嫌がっていた利用者様も毎日、繰り返していくうちに少しづつできるようになったり、また少しの時間でも「マスクをしようね」と声掛けして、一瞬だけでもできるようになったり、職員も最初はメガネが曇る、夏は暑いなあ、と言いながらもマスクの生活に慣れてきました。

事業所内や送迎車両の消毒も徹底して行っています。

☆定期的に換気する。

事業所内では、できるだけ窓を開けて換気に努めました。また、送迎時には車の窓を開けて送迎しています。

☆三密を避ける。

人数が多い時は、グループに分かれて活動しました。事業所内で活動するグループ、車で外に出て散歩やドライブをするグループというように少人数で活動をしました。外出の際にも室内は避け散歩、野球、魚にエサをあげる、花見など外でできる活動をしています。

事業所内でも部屋を分けるなど三密にならないように工夫をしました。机を離し、隣の席と離れてすわる。対面にならないように小さい机を多く使って作業や食事をしています。

また、送迎時にはワゴン車は6人まで、軽自動車は3人までと乗車人数を少なくして送迎のコースを増やして送迎しています。

☆飛沫防止

飛沫防止の為のつい立を手作りしました。

☆非接触

非接触体温計、センサー水道蛇口・手洗い石鹸ポンプを導入しました。今までは水道はレバー式、石鹸はポンプ式で、最初は利用者様も職員も慣れませんでした。今では水や石鹸が自動で出てくるので、「これは便利」と使っています。

挨拶する時やハイタッチをする時は、エアータッチをしています。

☆新型コロナウイルスに関する研修

正しい手洗いの方法、新型コロナウイルスってどんなウイルス?かかったらどうしたらいいの?感染しないためには?などを説明やプリントや映像を使って学びました。利用者様も職員も、またご家族様にも情報提供して皆で勉強しました。

☆「うつらない」「うつさない」を合言葉に。

自分が「感染しないように自分を守る」、「他の人にうつさないように利用者様、職員、家族、友人を守る」感染防止対策を徹底しています。



☆救命救急講習会☆

11月30日、堺市消防局より救急救命士に来て頂き、職員・利用者様で救命入門コースを受講しました。講習では、実際に胸骨圧迫とAEDを使用して心肺蘇生について学びました。利用者様も集中して話を聞き、実技も一生懸命に取り組まれていました。救命士さんより、心肺停止は自宅で起きるケースが一番多いとのお話がありました。また心肺停止は子どもや元気な方、誰にでも起こる可能性があり、予期せず大切な家族や仲間が突然倒れることがあるかもしれません。

命を救うことは簡単なことではありません。だからこそ、いざという時に命を守る行動をとるためには講習会等で知識を持つことは大切だと思います。今後も定期的に安全や救命の勉強会等を実施していきたいと考えています。
(看護師 深海)

